博士学位論文 審査結果の要旨

Abstract of review result

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程

Doctoral thesis defense committee

博士学位論文審査委員会

Main examiner 主査	蟹澤宏剛
Examiner 審査委員	志手一哉
Examiner 審査委員	古賀純子
Examiner 審査委員	片岡　誠
Examiner 審査委員	権藤智之
Examiner 審査委員	安藤正雄

氏　　名 Applicant's Name	勝田尚哉
論文題目 Thesis title	インドの建築生産システムに関する研究 国の発展と建設実務実態から捉える建設業の状況についての考察

〔論文審査の要旨〕

Abstract of review

本論文は、世界最大の人口を抱え、将来的に巨大な経済成長が見込まれるインドにおいて、その建設実務の「技術的・組織的な実態とその合理性」を解明することを趣旨としたものである。経済発展の勢いとは裏腹に、現場では安全設備の欠如や労働集約的な工法、頻繁な工事中断といった「途上国的」な状況が散見されることを、現地の資源や社会制度に適合した「独自の合理性」の結果として捉え、現場の「技術状態」は「産業資源（材料・労働力・資金力等）」と「市場・社会（需要・制度・文化等）」の相互作用によって形成されるという「技術状態モデル」を導入し、デリー近郊の現場の外観写真分析（調査 1）、ムンバイの実務者へのインタビュー（調査 2）、および建設関連企業の経営層への調査（調査 3）という多角的なアプローチに基づいて論じている。

論考は、施工技術における「業界標準」の解明に始まる。インドでは、外部足場を全面的に架設せず、各職種が必要な範囲のみ最小限の架設と解体を繰り返す運用が「業界標準」であり、安全規定（IS）に適合しない場合が多いものの、現地の産業資源と工期・コストのニーズが均衡した結果の「現実的な合理性」として定着しているとした。プロジェクト運営とリスク回避の構造については、インドの建設プロジェクトにおいては、事業主（デベロッパー）が自ら管理を行う直営方式が主流で、契約形態は、事前の数量明細（BOQ）に基づきつつも事後精算を行う Item rate 契約が多く自らがリスクを負うことで発注リスクを回避しようとする実態が示された。業界の構造的特性と将来の展望については、インフォーマル性：重層下請構造の中で雇用主の責任所在が不明確になりやすく労働環境や安全管理の不透明さに繋がること、不安定要因：複雑で裁量の幅が広い建築許可手続きや事業主の資金問題により工事の中断や遅延が事業に一定量織り込まれている実態があることが示された。

結論として、インドの建設業は独自の「業界標準」や「直営文化」を形成しており、それらは現地の社会システムに適合した独自の合理性に基づいていること、現在は「一般の途上国的運営」が主流であるが、一部では高品質や短工期を付加価値として求める市場も芽生えており、今後は市場ニーズの顕在化や法制度の整備を通じて技術状態が変容していく可能性が提示された。

最終審査会は、2026 年 2 月 7 日 15 時から 17 時に対面で開催され、審査員 6 名と傍聴者 2 名が参加（オンライン同時配信）して論文内容の発表と質疑応答を実施した。審査においては、予備審査での指摘事項について十分に改善がなされていること、学位論文に相応しい独自性と新規性のある知見が示されていることが確認され、審査委員の全員一致で合格と判定した。